



高尾の森から

高尾山は海拔600メートル程の山ですが、植物相や昆虫相が大変豊かな山として有名です。それは、冷温帯林と暖温帯林の境目に位置し、多くの種類の樹木や草本が繁茂するためです。したがって、西の大坂箕面国有林と双壁をなす昆虫のメッカといわれています。

今回は、東京神奈川森林管理署所属の森林保護巡視員（GSS）をはじめ、鳥や昆虫の愛好家や写真家が写し撮った、昆虫相の豊かな証でもある、高尾山で見られる代表的な蝶を紹介します。

①ミヤマカラスアゲハ

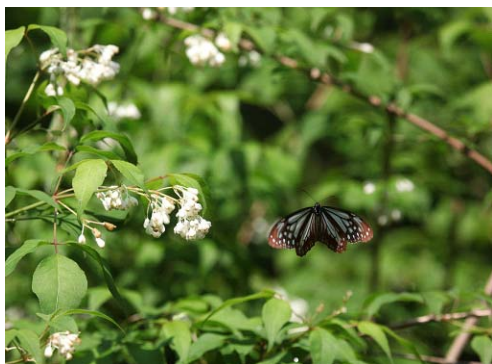
アゲハチョウ科



初夏から盛夏にかけて、高尾山周辺の水が染み出す林道で見かけるアゲハチョウの一種です。雌は全身がビロード状の光沢が青色や緑色に光線具合で変化します。つい採取したくなる非常に美しい大型（翼を広げて10センチを超える）の蝶です。幼虫は高尾山に多いミカン科のカラスザンショウやキハダを食樹とします。最近では心ない蝶の愛好家がむやみに捕獲するので減り続けています。

②アサギマダラ

マダラチョウ科



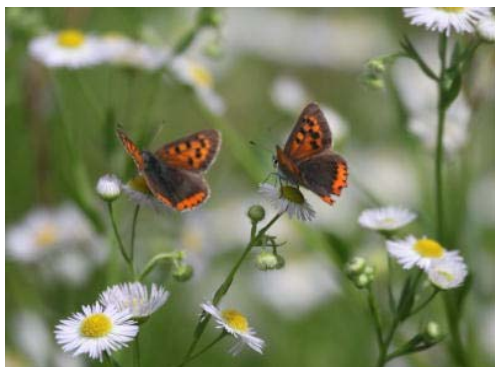
5月頃満開のウツギの花に飛来した姿です。翼長は10センチ弱。幼虫は、高尾山では林内でよく見かけるキジョランを食草とします。葉に含まれるアルカロイドが幼虫体

内に蓄積され天敵から身を守ることになりやすくなります。成虫もある程度の毒を持ちますが、食べたものに吐き気やまじいと感じさせる程度だそうです。

また、アサギマダラは列島を季節毎に往来することでも有名です。羽に認識番号を書いて放すマーキング調査では、大阪から台湾までの2千キロの飛翔記録が報告されています。風に乗って滑空するものと考えられています。

③ベニシジミ

シジミチョウ科



林道沿いのヒメジョオンの花で吸蜜する色の濃い夏型ベニシジミです。翼長は3センチ程です。人家周辺の草地や河川敷など明るく開けた場所に多く見られます。

足元をすばしこく飛び回る蝶です。食草はスイバやギンギンです。

④オオムラサキ

タテハチョウ科



昭和32年に国蝶に指定されました。晴天日の昼頃、水たまりに吸水にきた雄を、余りの華麗さに感動しながら撮影されたものです。翼長は9センチ程、幼虫は、高尾山の所々に自生するエノキの葉が食樹です。初夏から盛夏にかけて羽化する大型の蝶です。昨年は出現数も多く、滑空しながら飛翔し、成虫はクヌギの樹液に集まります。生物多様性の保全が叫ばれている今日、大都市圏の間近で多くの生物を育む高尾山の森を、関係機関と連携的に確に保全管理することへの期待が高まっています。